

資料 3

口蹄疫に対する対応について（報告）

平成 22 年 10 月 18 日
社団法人 中央酪農会議
酪農教育ファーム推進委員会

1. 口蹄疫発生の経緯と酪農教育ファーム活動に対する対応について

平成 22 年 4 月 20 日に宮崎県児湯郡の農家において口蹄疫の疑似患畜の 1 例目が確認されて以降、7 月 4 日の 292 例目の発症まで被害が拡大し続け、約 29 万頭の家畜が処分された。7 月 27 日に宮崎県内の家畜移動・搬出制限が解除され、8 月 27 日には宮崎県による「終息宣言」がなされ、9 月以降、酪農教育ファーム活動をはじめとした体験交流活動については徐々に全国で再開されている。今回の口蹄疫の発生に対し、中央酪農会議は以下のとおり対応した。

(1) 4 月 28 日 牧場開放等による消費者交流活動への対応について・・・別添 1

【趣旨】牧場開放等による消費者交流への対応について、不特定多数の来場者の受け入れについては当分控え、来場者が特定できる体験活動については自主判断。実施にあたっては、足ふみマットの設置や手洗いなどの衛生対策を改めて徹底指導。

(2) 5 月 25 日 教育関係者向け文書「口蹄疫に関するご理解とご協力をお願い」

・・・別添 2

【趣旨】口蹄疫の被害が拡大し続け終息の兆しがみえないなか、「酪農教育ファーム活動を推進する教育関係者」に対して理解・協力を求める文書を作成し、関係者を通じて連絡。「口蹄疫に関する情報」についても、提供。

(3) 6 月 4 日 「口蹄疫問題を考える（キッズのための）」制作・・・別添 3

【趣旨】口蹄疫についてわかりやすく解説した児童向けインターネット教材を制作し、酪農教育ファームの PC サイト上に掲載。

(4) 7 月 28 日 当面の酪農教育ファーム活動について・・・別添 4

【趣旨】7 月 27 日に宮崎県内の家畜移動・搬出制限の解除はあったものの、引き続き被災農家の堆肥処理や農場の消毒などが続けられていることから、事態の推移をしばらく見守

る。併せて、今後の酪農教育ファーム活動の再開にむけ、感染症防疫マニュアルを策定しており、地域交流牧場全国連絡会（以下、交牧連）などの関係機関と協議していることを連絡。

（５）８月３０日 今後の酪農教育ファーム活動について・・・別添５

【趣旨】８月２７日に宮崎県による「終息宣言」が出されたことをふまえ、中酪と交牧連と連携の上、「交流活動における感染症防疫マニュアル」を策定したことで、９月以降の組織的な酪農教育ファーム活動の再開について連絡。

（６）８月３１日 認証牧場・関係団体に対して、「交流活動における感染症防疫マニュアル」を送付・・・別添６・参考１

２．口蹄疫の発生から考える、酪農家が伝える「いのちの学び」

今回の口蹄疫の発生の際には、行政やマスメディアなどからの情報発信はもちろん、ブログやツイッターなどのソーシャルメディアを通じて、宮崎県の酪農家や関係者による個人レベルの情報が広がり、一般消費者からも多数のコメントが寄せられ、関心の高さが窺えた。

また、学校現場においては、特に体験活動の多い５月～８月にかけて、予定していた多数の酪農体験をやむを得ず中止にせざるをえなかった。それにもかかわらず、日頃、酪農教育ファーム活動を積極的に推進している教育関係者は、今回の畜産危機に対して非常に理解を示してくれていると思われた。この背景には、日頃から認証牧場やファシリテーターと教育関係者が緊密に連絡をとりあい、生産者サイドからの口蹄疫に関する正しい情報が、教育サイドへ伝わったからであると考えられる。なお、感動通信 VOL 2 2（８月発行）においては、口蹄疫問題を題材とした道徳の授業（学校公開）の様子をとりあげている。・・・別添７

今回の口蹄疫の問題を受け、酪農教育ファーム活動の主要な目的のひとつである「いのちの学び」について、今後、酪農家（ファシリテーター）がどのようにして児童（教育現場）に伝えていくのか、現場の情報を収集するとともに、口蹄疫による今後の酪農教育ファーム活動への影響についても、検証をする必要があると思われる。

以上